



真宗高田派本山 専修寺

高田

本山だより

令和4年 秋号

131



高田本山 HP

令和4年秋号（第131号）／発行・令和4年9月20日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



来年、令和五年には

開山親鸞聖人御誕生八百五十年

立教開宗八百年

中興真慧上人五百年忌

聖徳太子千四百年忌

の奉讃法会をお迎えいたします。

本年はその前年として

去る五月二十一日～二十二日

親鸞聖人降誕会、お待ち受け法

会が数々の催しと多くの参詣と

共に盛大に行なわれました。

コロナ禍が収まらない今こそ、

お念仏のみ教えを聞きひらき来

年の奉讃法会をお迎えしたいも

のです。



「なもあみだぶつ」を聞くということ

高田派鑑学・誓元寺住職

栗原廣海



一、こころすでにつねに浄土に居す

のは、信心の人のこころは常に浄土にあるということです。

お念仏のパワーは、それを受け入れる人を「正定聚・不退のくらい」につかせてくださること、そしてこのくらいについた人は、お釈迦様の次に仏になることが約束された弥勒菩薩と同じであると聖人がおっしゃっていることを、前々回、前回と考えてきました。

聖人は、関東の門徒にあてられたお手紙のなかで、
善導和尚の『般舟讚』には、
「信心の人は、そのこころすでにつねに浄土に居す」と釈しておられます。「居す」という

とおっしゃっています。どこまでも自己中心的でむさぼり、いかりのころから離れられない愚かな身ではあるけれども、お念仏のパワーをいただき、信心を得れば、如来のお徳につつまれて、こころは浄土にいさせていただいているようであると、信心のよろこびを、善導和尚の言葉をとおして語っておられるのです。

では、信心の人のこころが居すお浄土、この世の命を終えればまいらせていただくそのお浄土とはどのようなところなんでしょうか。

二、浄土の風光

このシリーズの第四回（一二六号）に書きましたように、浄土は、法蔵菩薩の本願が成就した世界です。『無量寿経』には、釈尊が阿難に対して、「法蔵菩薩はすでに願いを成し遂げ、今は無量寿仏（阿彌陀仏）という仏となって、現に西方におられる。その仏の国はここから十億の国々を過ぎたところにあつて、名を安樂という」とお説きになったと書かれていました。

釈尊はさらに、法蔵菩薩がさとりを開かれてからおよそ十劫の時間が経っていると伝え、浄土の風光をお説きになります。

「安樂国は金・銀・瑠璃・珊瑚・琥珀・硨磲・碼瑙などの七つの宝でできていて広さに限りがない。宝はまばゆく光り輝いて美しく、そのうるわしく清らかな様子はすべての世界に超えすぐれている。他の仏がたの光明とは比べようもない無量寿仏の光明はあらゆる世界

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075) 371-0854・8181～2番
FAX (075) 344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 野村守宏

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

を照らし、すべてのものに安らぎを与える。樹々の間を吹き抜ける風の音や池のさざ波が奏でる音は、教えの声となつてさまざまな仏がたの世界に響きわたる。この世界は、苦しみの世界である地獄や餓鬼や畜生の名さえなく、ただ美しく快い音だけがあるから、この国の名を安樂と言つのである」。

短くまとめましたが、実際には言葉尽くして「安樂(国)」の風光が説かれています。

また『阿弥陀經』では、釈尊は舍利弗に対して、「ここから西の方へ十萬億もの仏がたの国々を過ぎたところに極樂と名づけられる世界がある。そこには阿弥陀仏と申しあげる仏がおられて、今現に教えを説いておいでになる。その国の人々は、何の苦しみもなく、ただいろいろな楽しみだけを受けているから、極樂というのである」と説かれ、極樂の風光が詳しく述べられています。そのなか、

「この国には白鵠・孔雀・鸚鵡・舍利・迦陵頻伽・共命鳥などの

色とりどりの美しい鳥がいて、優雅な声で鳴いているが、その鳴き声は尊い教えの声である。これらの鳥は罪の報いとして生まれた鳥ではない。なぜなら、阿弥陀仏の国には地獄や餓鬼や畜生がないからである。これらの鳥は、阿弥陀仏が教えを説き広めるために、いろいろと形を変えてあらわされたものにほかならない」。

と説かれているのは、「安樂国」には地獄や餓鬼や畜生の名がないという『無量寿經』の言葉に重なります。

三、阿弥陀仏の国の呼び名

お気づきのことと思いますが、阿弥陀仏のおられる国は、『無量寿經』にも『阿弥陀經』にも「浄土」とは言われていませんね。『無量寿經』では、「安樂(国)」や「安養国」と言われています。『阿弥陀經』では、「極樂」か「極樂国土」です。また、「觀無量寿經」では、「極樂世界」「極樂国」「極樂国土」「極樂国地」「西

方極樂世界」「西方極樂国土」と、多様な表現になっています。

阿弥陀仏の国を「清浄な国土」の意味で「浄土」と言われたのは、曇鸞大師です。曇鸞大師は天親菩薩の『浄土論』を註釈した『浄土論註』を著しておられますが、その中で、「浄土」や「安樂浄土」という表現をしておられるのです。「浄土」は、他にも薬師如来の東方淨瑠璃浄土など、いろいろな浄土が仏典には説かれているのですが、曇鸞大師以降、道綽禪師や善導大師等によつて浄土教がいよいよ展開していくなかで、次第に「浄土」は阿弥陀仏の「西方極樂浄土」を意味するようになっていくのです。經典に説かれている「浄土」の風光を概観してきましたが、親鸞聖人は「浄土」をどのように受けとめ、私たちにお示しくださっているのでしょうか。

今回はこのことについて考えてみたいと思います。

日本古来より伝わる土壁の家づくりと伝統建築の保護・再生
土壁・漆喰・竈の伝統技術を守り継承していきます

土築舎

Sochikusha Co.,Ltd

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : sochikusha@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

井 法衣・仏具製造及び販売 筒



井筒法衣店

都

京

代表取締役社長 今岡規代
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通
新花屋町角(西本願寺前)
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
三栄町十四番地三三
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902
IZUTSU

「凡夫よ」



如来堂 聖徳太子

佛教を深く学んで、佛教精神に
もとづく政治を目指されたのが聖
徳太子です。前回の「十七条憲法」
の第二条「篤く三宝を敬え」とある
ことからそのことが窺えます。

第十条冒頭では、

忿^{いかり}を絶ち、瞋^{おもしろいかり}を棄てて、
人の違ふ^{ちが}を怒らざれ。

とあります。これは「心に憤りを抱
いたり、それを顔に表したりする
ことをやめ、人が自分と違ったこ
とをしても、怒らないようにせよ」
ということです。集合写真を見ると、
き真つ先に自分の顔を探るように、
人間は無意識に自分を中心にも
を考えるため、常に自分が正しい
と思いがちです。そして他者が自
分と違う考えだと腹が立つのです。
佛教ではその腹立ちが起る原因
は「煩惱^{ぼんのう}」のせいであると説かれ

ています。

煩惱とは、命終わるまで消すこ
とのできない心と身体の悩みです。
除夜の鐘を撞くときによく「百八
つ（たくさん）の煩惱がある」と
いいますが、そのたくさんある煩
悩の中でも三大煩惱といわれる煩
悩があります。それは

「貪欲（底なしの欲）」

「瞋恚（いかり）」

「愚痴（真理に暗い愚かさ）」

の三つであり、これらを猛毒に例
えて「三毒の煩惱」と呼んでいます。
二番目の「瞋恚（いかり）」とは、
憎しみ、怒り、腹立ち、心が安ら
かでないこと、といった意味があ
り、第十条冒頭ではまさにこの「瞋
恚」という煩惱に対しての自覚と
戒めが促されています。そして次
に太子は

我必ずしも聖に非ず。彼必ずし
も愚に非ず。

共にこれ凡夫ならくのみ。

という言葉が続けられます。「凡夫」
とは、仏様をご覧になった人間の真
の姿で、生涯において煩惱を離れ
ることができず、浅はかな知恵し
か持てない私自身を表す言葉です。

常日頃、自分のことは棚上げし、
他者のことを批判して腹を立てて
はいないでしょうか。たとえ自分が
正しいと考えてやっているとと思っ
ても、それは本当に絶対正しい事な
のでしょうか。自分は正しい、自分
は善という思い込みが危険なので
す。それがすべてを歪め、争いとな
っていきます。家庭でも、国家
でもそれは同じことでしょう。佛
教はそのような私の姿をあわれん
で「凡夫よ」と呼び掛けてくださっ
ています。このような仏様の視点
が取り入れられているのが、十七
条の憲法の大きな特色です。

（教学院第三部会）

永田文昌堂

新刊

ラジオ法話 親鸞 正信偈
土岐 慶正著

定価 2,750 円（税込）

本書は、FM「ラジオたかおか」で
2018 年 8 月から 2022 年 1 月ま
で、放送された親鸞聖人の「正信
偈」の 10 分間法話に、一部加筆
し現代語訳（試訳）を加えたもの。
教学と法話は両輪であり、「正信
偈」のなかに響いている宝石のよ
うな鼓動を、法話として伝える。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

新刊

アミダ・プロジェクト
—人間社会を問いつ返す最後の根拠—
野世 信水著

定価 2,420 円（税込）

今回のロシアとウクライナの戦争におい
て浮き彫りになった、想像をはるかに超
える人間社会の悲しき現実。今必要なこ
とは、この現実の人間社会で、自分自身
が日々生きる上において、その根拠足る
べき思想基盤としての親鸞さんである。
この本では、親鸞さんの念仏の真意を明
らかにし、アミダ仏の本願を追求する。



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株式会社

〈石に御用の方は〉 イレニヨヨオ
0120-142540

本店 津市広明町（彰義寺門前）
☎059-224-1700（代）

特別法要 事務局だより

第四回

宝物館の基本設計として どのような機能が必要なのか・

以前にもお伝えいたしました通り、新しい宝物館は高田本山が所有する多数の法宝物を未来へ受け継いでいくこと。そして親鸞聖人の教えを分かりやすく伝えることを目的に建設をしております。

基本設計として、第一に必要なのは法宝物を守り、管理していく環境づくりです。

宝物館に収められた法宝物の多くが書物や掛軸などであり、故に、湿気や虫、紫外線に弱く、対策をせずに放置しておくことが



にカビやシミの原因となります。

第二に火災や自然災害への対策です。

高田本山自体二度の大火に見舞

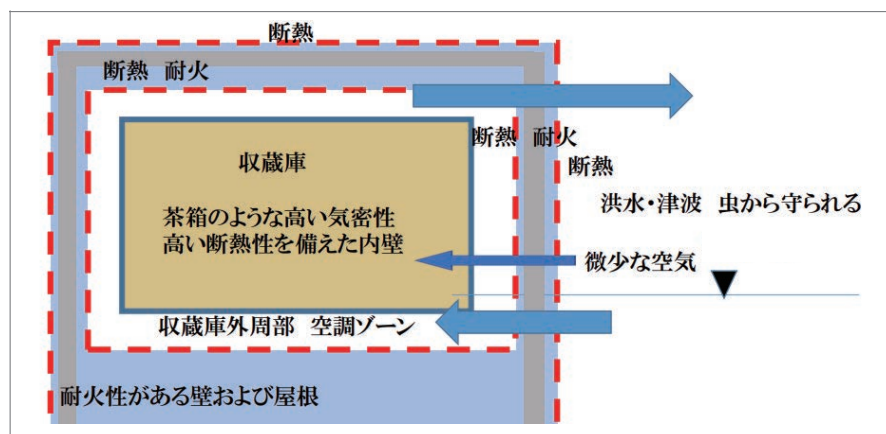


われ、本堂が延焼したことがあり、火災への対策は今現在でも行っており

ます。宝物館でも同様の対策が必要となります。

また、将来南海トラフ巨大地震も予想されており、それに備える必要があります。

これらに対応するために新宝物館で求められているのはRC構造を基本とした耐久性と温度や湿度、紫外線、雨漏りなどから收藏されている法宝物を守る保存性で



す。

収蔵庫の周りを二重コンクリート壁構造とし、壁と壁の間の空間を確保することにより空調を整え、収蔵庫が直接外気に触れないようになっております。

また、茶箱のような高い気密性を持たせて、庫内の温度や湿度の変化を少なくし、必要となる空調費用の軽減を計っております。

新宝物館では展示内容を時期により、随時変更していくことを考えております。何度訪れていただいても新しい発見や体験が出来るような施設となります。

ぜひ、足をお運びください。文化財活用（VR）室では、最新技術であるバーチャルリアリティ（VR）を体験できます。

収容人数は約40名となっております。極楽浄土の世界をVR（仮想現実）として映像表現され、視覚的に真宗の教えを分かりやすく、後世に伝えてまいります。

また、国宝である如来堂や御影堂の文化財をドローンや3D技

（次ページへ）

術を駆使し、立体的かつ未知（普段見ることができない高い位置にある彫り物など）の意匠を体感することが出来ます。

● ● ●
只今、特別法要事務局では本事業のご懇志を受け付けております。

ご志納頂きました方のお名前を墨書して宝物館に献納いたします。

また、2万円以上ご志納された方のお名前は宝物館の廊下壁面に記銘いたします。

記銘には作業時間が必要なため、記銘をご希望されます方は、令和4年12月31日までに、ご所属の寺院もしくは特別法要事務局（059-232-4177）までお申し込みください。

名古屋市区那古野にあります

人情味あふれる円頓寺商店街。その界限にたらずみ、「御本坊」と親しみをこめて呼ばれているお寺が、真宗高田派専修寺名古屋別院です。

正保4年（1647年）。義越

玄恕和尚が、現在の別院の場所から少し離れた皆戸町に「信行院」というお寺を建立されました。この信行院が、那古野の「順正寺」と合併するとともに移転して、現在の名古屋別院の前身となりました。

た。

信行院は、元文4年（1739年）に「高田山高田本坊」と名称を改め、1854年に庫裏と書院を建築。また、1910年に鐘楼および布教所の建築を完成させます。その頃に、下野高田山の一光三尊佛御開扉法要を行い、その様子は「未曾有の参拝であった」と『神社誌』に記されており、当時の別院の充実具合を窺うことができます。

そんな名古屋別院に、最大



廊下に映し出された二河白道

文化財活用（VR）室へ向かう廊下は、善導大師が説かれた「二河白道」のたとえを表現しています。向かって右の荒れ狂う水は底なしの欲望、左の燃え盛る炎は怒りという、人間の煩悩を表します。

の苦難が訪れます。昭和20年（1945年）、第二次世界大戦下における空襲の災禍によって、山門、鐘楼、土蔵、水屋以外は全焼。それまで築いてきた別院の大部分が烏有に帰すこととなったのです。

元別院職員であった方の話によりますと、この火災を目の当たりにされた女性が、その日その時のことについて教えてくださったそうです。

「焼夷弾がいくつも本堂屋根に落とされ、燃え上がり、数人の僧侶の方が、境内水屋の桶と柄杓を使って、必死になって下から屋根に水を掛けていた」と。

「届くはずがない、消せるはずがない」と思い、震えが止まらない中で、不謹慎にも、何故だかわかりませんが笑ってしまったんです」と、涙ながらに語られていたと。

名古屋別院

（御本坊と親しまれる）
真宗高田派専修寺



火災後は、境内の焼け跡に、空襲によって住む家を失くした人達の急造バラックが建ち並び、その数は53戸にも及びました。

終戦後、混乱極まる社会の中で、当時輪番であった三井稔淳氏や、山田音一氏、坂久吉氏、坂常作氏、佐野亮三氏らの粉骨碎身の尽力によって、バラック群の立ち退きを実現させ、また本堂、庫裏の再建を成し遂げ、昭和27年（1952年）に落慶法要を行うに至ったのです。

昭和36年（1961年）には、戦争下の金属不足で供出されてしまった梵鐘の代わりとして、一山会（坂種報徳会の姉妹財団）の寄進による梵鐘が備えられ、一時は失われていた別院としての機能が、一つ一つと取り戻されていきました。

そして、今日に至ります。現在、名古屋別院は、主に僧侶の研鑽の

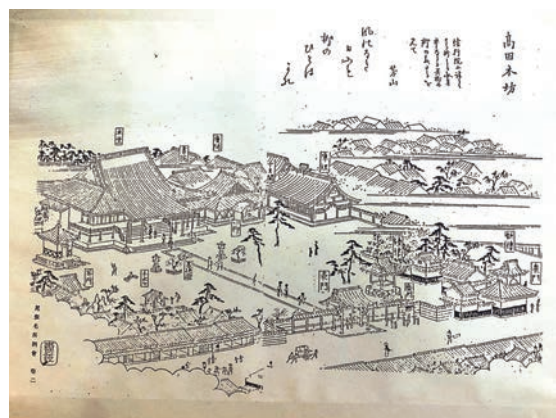
場として、または布教伝道の場としての意義を持ちつつ日々営まれています。毎月16日には定例法話会が行われ、人生の依り処となるみ教えを、多くの檀信徒の方々が聴聞してくださっております。

定例法話会は、会費などもなく、どなたでも参詣していただくことができます。多くの方々が命を賭して護られてきたこの歴史ある名古屋別院に、みなさまお誘いあわせの上、ぜひお参りください。

（記、名古屋別院承仕 戸田栄信）



本堂内（平成28年に行われた一光三尊佛御開扉法要）



名古屋別院 戦前の別院の絵図



観経曼荼羅（横写真）

【参考資料】

- ・『高田の寺々』3頁～4頁
- ・真宗高田派宗務院1980
- ・『愛知県歴史全集・寺院篇』
- 頁 愛知県史誌出版委員会

31

真

ニュース情報番組

MiEライズ

三重のとれたて情報をお届け。

毎週月～金曜日
17:40～生放送!

MTV 三重テレビ放送

毎日の暮らしに役立つ
三重県の情報
がぎゅぎゅっと詰まった
『三重テレビアガリ』
が登場したよ!

ダウンロードは
二次元コードを
読み取ってね!

自分史、句集、歌集、写真集、画集、エッセイなど...

本にしませんか?

編集
おまかせ
ください!

手書き
原稿OK!

予算に
応じた
ご提案

お見積り
無料!

「本を作ってみたい」というあなたの想いを、企画から制作・編集・校正、印刷、製本まで一貫して本づくりをサポートします。

印刷から情報価値創造企業へ

株式会社 オリエンタル

お気軽にお問い合わせください。
tell. 059-245-3111 (代)

こんな行事がありました

さまざまな課題を話し合う 高田派青年の集い 福島大会

六月二十六日（日）、高田派青年の集い福島大会が二度の延期を経て開催されました。今回のテーマは「会津地方の太子信仰と高田派」とし、福島県南会津の南泉寺、自源寺を参拝しました。南泉寺では開会式を行なったあと、会津地方の太子信仰についてお話いただきました。自源寺では福島の高田派寺院の現状についてお話いただいたあと、閉会式を行いました。



感染症対策のため大幅に日程を変更しての開催となりましたが、参加者も久しぶりの大会で、交流を深めることができました。

また、閉会式では長年、青年会長をお勤めいただいた法主殿が会長職をご退任され、

行事案内

讃佛会 九月二十日～二十六日

資堂講法会 十月一日～三日

教学院研究発表大会 十月三十一日

納骨堂法会 十一月三日～四日

秋法会 十一月五日～十日

中興上人御正當 十二月八日～十日

※開催予定の行事につきましても、感染症対策のため異なる運営となる場合があります。詳しくは高田本山ホームページをご確認ください。
(<http://www.senjufi.or.jp>)

法嗣殿が会長にご就任いただきましたのお話がありました。

第九十六回 佛教文化講座

八月一日～五日

初日 法主殿 御親講

「宇都宮氏の成立と展開」



二日 三木彰円 先生

『教行信証』の願い

三日 蒲池勢至 先生

現代葬儀と真宗門徒の生死

観・亡き人のゆくえ

四日 木村清孝 先生

安穩の世に向かう道

五日 栗原廣海 先生

親鸞聖人の回向論

八月一日から五日まで、毎年恒例の仏教文化講座が高田会館ホールにて開催されました。感染症対策をなされた中、皆様熱心に聴講されました。

歓喜会 八月十四日～十六日
境内一面に咲き誇る蓮の中、ご家族でお御堂や納骨堂にお参りされる姿が数多く見受けられました。

お七夜献書展 作品募集

下記の課題で第

52回お七夜献書展の応募作品を募集しております。詳細は高田本山HPを参照、もしくは宗務院（電話059-232-4171）までお尋ねください。

第五十二回お七夜献書展課題 作例					
ちえ たかたろう 幼稚園・保育園 小3 高田太郎	見真 小3 高田太郎	聖徳太子 小6 高田太郎	とく 小1 高田太郎	高山 小4 高田太郎	一心 小2 高田太郎
蓮華蔵世界 中1 高田太郎	至心信樂之願 中2 高田太郎	大悲無倦常照我 中3 高田太郎	上中 小5 高田太郎	人興 小5 高田太郎	慧日照世間 恭敬繞三市 消除生死雲 稽首無上尊 高田太郎
南無阿彌陀佛となれば この上の利益さわなし 流転輪廻の罪さえて 定業中天のぞこりぬ 高田太郎					
高校生・一般					

『本山だより』題字について

※法主殿の御染筆を、新たに本山だよりの題字として頂くこととなりました。

寺院名